

様式4 令和4年度新座市学校評価システム 課題報告書

学校名	新座市立大和田小学校
実施日	令和 4年 12月 3日

No.	質問項目	評価結果を踏まえた具体的な改善策		中間評価ポイント	評価 A/B/C/D
		中間評価	本評価	中間評価ポイント	評価 A/B/C/D
1	私は、自己有用感の高い学校づくりに取り組んでいる。	中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会等を活用しながら、頑張った児童を児童同士が認め合ったり、教師が誉めたりする機会を充実させる。 ・失敗してもいいので、できる限り児童に計画を立てさせ、取り組ませてみる。最後まできちんと見届け、できたことは認めてあげる。 	3.24	B
		本評価	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳コーナーやありがとうコーナー等の設置により、教室掲示物を充実させる。 ・職員が作成する自己評価シートの目標欄に、できる限り有用感向上に関する具体的な目標(数値)を記載し各自取り組む。 ・個人面談や懇談会、連絡帳を使い、保護者と学校とで児童の良さを共有し、学校・家庭の両輪で自己有用感の向上をさせる。 	3.33	B
2	私は、ゴール(身に付けさせたい力)を明確にし、主体的・協働的に課題解決を図る授業づくりに取り組んでいる。	中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に児童の学習状況を的確に把握し、何をねらいとすべきか目的や課題を精査してから提示する。 ・ロイロノートやジャムボードなどのソフトを使って、対面だけでなく、ICTを活用しながら協働的に解決する場面を適宜授業に組み込む。 	3.24	B
		本評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で「めあて」・「評価」・「ゴール」の一体化を意識し、授業を構成する。また、自分の言葉で授業の「ふりかえり」を書かせる。 ・課題を精査し児童に提示した後、タブレットを積極的に活用し、意見を交流させ、課題解決に取り組ませる。 	3.39	B
3	私は、児童の『自分から』を大事にした主体的・協働的な教育活動に取り組んでいる。	中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに具体的な「自分から」のイメージ像を話し合っ、学年で共有化する。(既存の掲示物を見直し、時流にそったものに変える) ・教師側から具体的な声かけをすることを減らし、ことあるごとに児童に気づかせるような「きっかけ」を与える。 	3.18	B
		本評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策を継続しながら、運動会や縦割り活動、学級活動など、児童が主体的に活動できる場を、教師ができる限り設定していく。 ・児童が自ら気づき、行動するまで待つ姿勢を持つ。そして、自分から行動できたら具体的に誉める。 	3.25	B
総 評					
	中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を強く意識しての活動となり、授業中に対面のお話し合いなど制限されることが多い。そのような状況下においても、ロイロノートやジャムボードなどのソフトを使い、ICTを駆使してできる限り協働的な学習活動を継続し、学力向上に取り組んでいく。 ・大規模校で職員も多く、足並みを揃えて生徒指導を行っていくことの難しさがある。職員同士のコミュニケーションを密にとり、連絡を取り合いつつ一丸となって生徒指導を進めていく。 			
	本評価	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生では西武ライオンズOBによる野球教室、6年生では新座柳瀬高校によるサッカー教室、4年生では十文字学園女子大学生を招いての歌唱交流等、コロナ禍による制約を受けながらも、管理職を中心に職員が一丸となってアイデアを出し合い、児童の主体性や協働性の育成、自己有用感の向上に努めた。 ・児童は1人1台配付されたタブレットを使いこなし、対面だけでなく画面上で意見を交流したり、他の子の提出作品を見たり、スライドを作成したりして、主体的・協働的な学びを充実させながら理解を深めることができた。また、自習時間や授業中に一人ひとり自分のペースに合わせてタブレットのアプリケーションを使って、既習内容の振り返りに取り組み、基本的な学習内容の定着に努めた。 			